

2020年 5月

2020年 6月 25日発行

NPO 法人 わっか

月次報告書

19



だけれども、まるごと受けとめられる社会をつくる

わかっかは、だけれども、まるごと受けとめられる社会を目指して活動を行う団体です。

子どもを取り巻く環境について

子どもたちは、思うがままに過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が
少なくなっています。いまの子どもたちは、自分では変えることができない

社会環境や大人の意識の変化により「思うがまま」に過ごす時間や、

まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。

大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で、

子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、

さらには、地域社会においても、

その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっています。

また、学校、学習塾、習い事、スポーツクラブで多忙な毎日を送り

仲間も時間も空間もなくなりつつあります。

「わかっか」は、2014年3月から活動をおこなっています。

活動のはじめは、月に1回冒険遊び場を、びわ湖のほとりで行っていました。

2016年からは、古民家の開放をはじめました。月曜日の放課後は毎週あけ、

日曜日は月に1、2回開けています。その時間を通じて出会った人の声に応えるように、活動の幅を広げています。



若者へ毎日届けるお弁当

わっかでは

毎日、若者へ手作りの

お弁当を届けています。

「ごはんっておいしいんだね」

ご飯を食べることは

作業だと思っていたから

お弁当を通じて若者と

つながり続けています。

お弁当と、お弁当をつくる

あすかさんの言葉から

日々のことをお伝えします。



新型コロナウイルスの影響で
オープンにできない活動。
ネギ入りたまご焼き好評でした。



少しずつ引きこもっている若者が
散歩にでられるようになってきた。
このまま良い天気が続きますように



きょうは鮭弁当
みんなの好きなものばかり
ハムのブーケ喜んでくれるかな



引きこもり族がさらに引きこもり
できることしかできないけれど
ごはんを届けるくらいならできるよ



お弁当のお届けが
お腹を満たすだけでなくことに
うれしさを感じます。



いちご嫌い、しそ嫌い
肉の脂きらいと、それぞれに
ちがうお弁当を届けます。



アジの蒲焼き弁当です。
白ごはんと相性ばっちり。



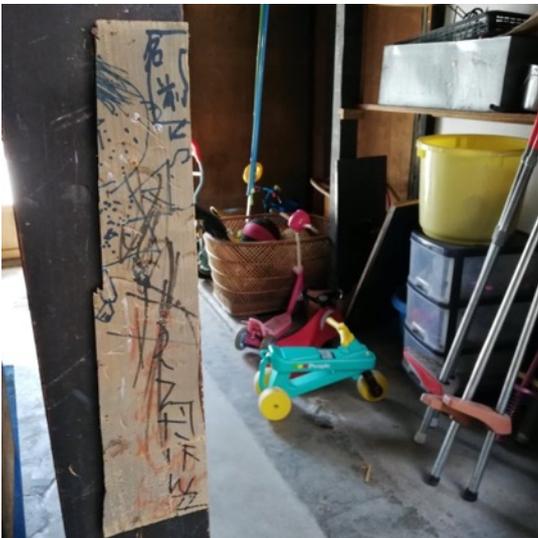
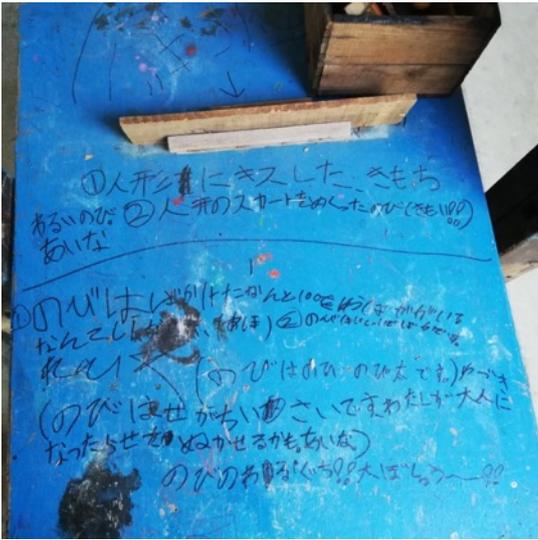
社会にでたい、自立したいと願ひ
ながらも背負う傷は深く
もがき続ける毎日



身体の中から鋭気を養って
もらえたらと願ひを込めて

日々のおすかさんのつぶやきは Twitter @aoas_wacca

こどもたちが、
わっかに
のこしたもの

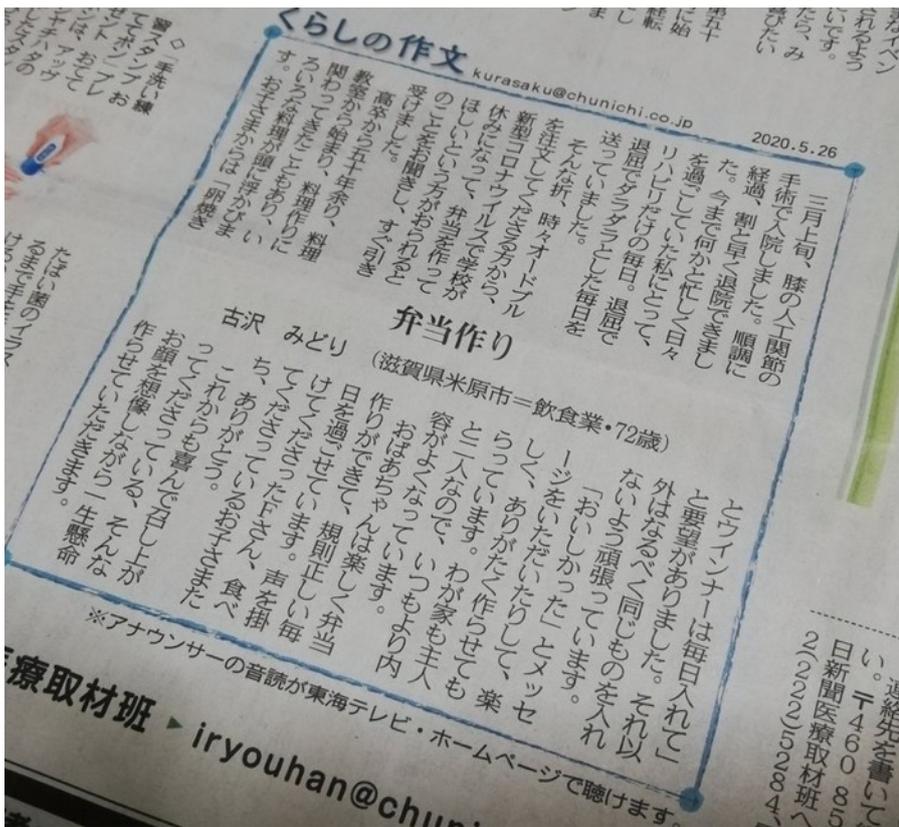


学校休校中、 子どもに毎日届けたお弁当



米原市在住の古沢みどりさんが作ったご飯を毎日届けました。

お弁当を配達しはじめると、すぐに子どもがお礼の手紙を書いてくれるようになった。こちらがお願いをしていないのに、手紙を書いてくれた。それをおばあちゃんに渡すと、よろこんでくださった。「ありがとう」とおっしゃり、何回かわたしたときに「これ、お子さんに渡して」と返事をもらった。おばあちゃんも手紙を書いてくれた。それを子どもに渡すと、嬉しそうにしている。お弁当の配達だけではなく、そこに手紙のやりとりがはじまった。



中日新聞に古沢さんが思いを綴ってくださっていました。

放課後児童クラブ さかつこクラブ



前回の月次報告で、私達が子どもと向き合うときに大切にしていることは、子どもと一人の人間として向き合うことだと、みなさんにお伝えした。

それって、言葉にするのが簡単だが、実際はそう簡単ではない。それは、子どもを大人扱いするのも違う、小さな大人として、責任も自己責任で全て自己完結させるにも違う。だけど、子ども扱いして、わからないから大人の言うとおりにしておけばいいとか、あたかも、こちら側が何もかも分かっているように接するのも違う。

まず、人間は「今」この瞬間に生きているということ。それが、確かな事実であり、全ての人に当てはまる。基本的に、過去や未来に生きてはいないのだ。だから、子どもも「今」に生きている。子どもである「今」に生きているのだ。だから、できないこともあって当然。わからなくて当然。だって、人生で初めての経験ばかりなのだから。大人からすれば、ありふれた日常の一コマや動作や瞬間であっても、子どもにとって、それは未知なる世界であり、経験だ。そこには、不安や恐怖、さまざまな思いや感情も入り交じる。だから、突拍子もない行動もするし、大人からすれば、何してんの？と思ってしまうことも多々あるだろう。そういうものなのである。その前提を基に、子どもと向き合わないとおかしなことになる。でないと、大人と同じようにできる事を求めたり、わからせようとしたりしてしまう。それは、間違っている。できなくていいのだ、できなくて当然なのだ。でも、何もわからないわけでもないし、感じているし、言葉にできないだけかもしれない。

そう、ボクやあすかは、子どもが言葉にはできないけども、様々な刺激に対して、敏感に反応し、それに対して、様々なレスポンスを出している。それは、言葉でなく、行動だったり、態度だったり、表現だったり、いろいろだ。だから、大人が思っているよりもずっと賢い。わかってないようでわかっている。こうやって言うと、全ての子どもは美しい清廉潔白な存在だと言っているようなので、実は嫌なのだが。

ボク達は、そうやって思うのと同時に、大人と同様のいやらしさや、ずる賢さ、いわゆる悪意も子ども達には存在すると思っている。だから、無条件にきれいな存在とも思っていない。だけど、大人よりもわかりやすく、素直な部分も多いのも確かだ。大人は、これまでの培ってきた知識や経験でごまかすこともできるから。でも、子ども達は、そういう知識も経験もないから、割と反応がはつきりとしている。まあ、だからといって、その子の全てがわかるわけでも理解できるわけでもないが。あくまで、一場面ごとの彼らの反応はわかりやすいという話。

ボクらは、子ども達に対して、大人らしく振る舞おうとしない。むしろ、人間らしく、感情を表に出して、楽しく、おもしろく、おもしろく、悲しく、寂しく在ろうと意識して接している。そうしていると、彼らにとって、ボクらは大人ではないのかもしれないと思うことがある。でも、それが、上下関係が当然の大人と子どもも観から脱却した子どもとの向き合い方の結果なのかもしれないと思う。

子どもは、小さな大人でもなく、大人と同じ人間でもない。子どもという「今」を生きている人間なのだから。

私の中で、であった瞬間に、ああこの人とは関わり続けるんだろうなと思うときがある。わつかと出会ったときも、その感覚だった。はじめは滋賀県教育委員会から派遣されるスクールソーシャルワーカーとして坂田小であった「のび」と「あすか」。そして、ふらっと立ち寄った古民家で一緒にコーヒーを飲んだ「ふりかど」。三人にであったとき、「ああ、きっと何者でもない佐藤真紀として関わり続けるんだろうな」と感じた。(余談であるが、コーヒーは苦手であったものの、ふりかどの淹れてくれるコーヒーはおいしい。)

さて、そんなわつかを中から、そして外から眺めながら書き綴るコラムも3回目。私は研究や工作上、全国の多種多様な若者支援現場の取り組みを見させていただく機会に恵まれている。各団体とも、そこに集う子どもや若者はそうした団体がつくるシステムに集うのではなく、そこにいる人に希望や期待をもつてやってくるのが分かる。それは、家庭でもなく、学校で出会う教師でもなく、児童相談所で出会う児童福祉司でもなく、もちろん私のような精神保健福祉士といった専門職でもない。もちろん、団体の活動をしている以上は、わつかも「わつかのふりかど」であったり、「わつかのあすか」であったりするかもしれない。ただ、それ以上に地縁や所属といった枠組みを超えて「ふりかど」であったり、「あすか」であったり、「のび」という人としての関係性を結んできている。「わつかの〇〇」と個人としての「〇〇」を出したり、入ったりしながら。

そして、そうしてわつかに関わる私たちも、完全なる人間ではない。子どもや若者から見て、羨望の眼差しがあったとしても、唾棄すべきものがあったとしても、そうした周囲からの毀誉褒貶と同時に、私たちもまた「わつかの〇〇」ではなく、「わつかに関わる〇〇」として日々不完全な人間として悩んでいる。こうした話は…いわゆる専門職の人からは否定されるかもしれないが、そうした不完全なものでいいのだ。不完全であるからこそ、わつかに来る人と悩み、進んでいける。前を歩くのではなく、時には隣を歩き、時には斜め後ろからそっと支える。それくらいの大人で十分なのだ。そして、それは「わつか」に関わる私たち大人だけでなく、子どもも、若者も成長しているうちは大きくなっているなんてことは自覚しづらいのだ。だから精一杯(もちろん、適度で倒れない程度に)悩めばいいのではないかと思う。



Maki Channel

第3回

佐藤真紀

。こうして、悩めばいいのではないかという話しをふりかどにすると「悩むのにも、ただ悩むのではなく、その悩むためのプロが必要だ」という回答が返ってきた。たしかにその通りであり、悩むことにも材料はいるわけです。ただし、悩んでいる苦悩しているという表現が適切以上は、それが自分の中から発掘されていないだけで、材料は既に分の中や目の前にあったりする。大切なのは、そうしたことを安易に「こうしたものだ」と言葉にすることではなく、自分にびったり、しつくりとくる答えを探していくことだ。そして、それを探すプロセスこそが大切だ。そのプロセスも、ひとりで悩まなくていい。一緒に「飯でも食べながら、コーヒーでも飲みながら悩めばいい。まず、一息ついて、一緒に悩もう。そうした場が「わつか」の特徴でもあるはずだ。

今回書き綴りたかった事とは少し脱線してしまったが、わつかにはふらっと立ち寄る子どもやおばあちゃんがいったり、あすかの作る「飯が食べたくて来る若者もいたり、私のように出たり入ったりしながら関わり続ける人もいたり、野菜やパンをくれる人こと関わってくれる人もいたり、いろいろな人たちに支えられている。

そんなわつか。

あなたにとってわつかはどんな存在ですか？

わつかは私たちのものではありません。

そこに来る人たちで作っていくものです。

それぞれの関わり方でいいし、関わりなくてもいい。

いろいろな距離感で、ゆるやかな目で、見守りつけて欲しいと思う。

そして、「ただ、生きることも難しい社会になっているけど、私たちは」こんな当たり前に、よりよく生きることをわつかで模索し続けたいと思う。

佐藤真紀さんのプロフィール @19hz(Twitter)

現場から現代社会を思考する/ソーシャルワーカー(精神保健福祉士|社会福祉士)/非営利法人の理事/大学院生/JYCフォーラム/地域:東京,岐阜,滋賀/領域:地方自治,若者,子ども,虐待,ひきこもり,生活困窮,学校,女性,LGBTQ/

居場所づくり事業



月ようわっか 毎週月よう日 15:30 ~ 20:00

こども **36** 名 (**26** 名) おとな **9** 名 (**0** 名)

() 内の人数がご飯を食べた方持ち帰りも含む

11日 こども **10** 名 (**8** 名) 大人 **3** 名 (**0** 名)

ごはん、小松菜としいたけの味噌汁、ちくわの磯辺揚げ、キャベツの肉味噌炒め

18日 こども **11** 名 (**7** 名) 大人 **3** 名 (**0** 名)

お誕生日リクエスト☆ カレーライス、チョコレートケーキ

25日 こども **15** 名 (**11** 名) 大人 **3** 名 (**0** 名)

ごはん、えのきとネギの味噌汁、じゃがいもとさつま揚げの煮物、
ピーマンのツナ和え

毎週月よう日の放課後に必ずひらかれる場です。参加費無料・申込不要。カリキュラムやプログラムは一切なしで「ルールがない」がルールです。子どものみちくさできる場所、子どものたまり場として場をひらいています。

居場所づくり事業



平日わっか 毎週火～金曜日 13:00 ~ 17:00

こども **31** 名 おとな **4** 名

5月18日から平日毎日開けるようになりました。

コロナ渦で学校休校になり、子どもたちの中にはしんどい毎日を送る子どもがいました。わっかで、もともと繋がっている子どもたちとは、古民家で個別に過ごすことができましたが、つながっていない子どもには何もできない、あらたにつながることもできないことにもどかしさを感じました。

いま、わっかで関わる子どもたちはコロナ以前のように学校に通ったり、外出ができるようになりました。そんな今、どれだけ出会えるかが、再び子どもたちが外出できなくなったときに大事なと感じています。

居場所づくり事業



日ようわっか 日曜日 10:00 ~ 15:00

コロナ対策によりお休み

日ようわっかに、いつも来てくれる方たちに伺い、5月はお休みにしました。

「いつものように過ごせるようになるのを楽しんでいます」

「安心していけるようになってからいきます」

とLINEで常連さんから言葉をいただきました。

開けようかどうかと迷っていましたが、きている人の声を聞いて閉めることにしたのは、よかったなと感じています。

たぶん、開けてもよかったんだと思うんです。

でも、声を聞くっていうのが思ったより、気持ちの面でしっくりきているので、これからもきている人の声を聞けたらと思っています。

居場所づくり事業



かめラボ 金曜日 17:30 ~ 19:30

コロナ対策によりお休み

かめラボは、学校と連携して企画運営していた点もあり、学校休校中は活動を一旦お休みしていました。

休みになるまでのかめラボで、小学生の子ども達は、マイクラフトというゲームで姫路城を作りたいと言って、自分達で姫路城の本を準備して、実際に作りはじめていたところでした。休みになったのは残念ですが、再開した時に彼らの興味がどう変わっているか楽しみでもあります。

少し前、たまたま出会った子ども達の保護者の方が「再開を楽しみにしてます」と言ってくれたので嬉しかったです。

まずは、これまでのように楽しい時間を過ごせるようにしたいと思います。



5月に頂いたご寄付



物品でのご寄付 **2**名

野菜（ご近所さまから）

お菓子（わっかの前を散歩している方から）



マンスリーサポーター **14**名

大溪麻紀子、福地真路、後藤基志、マコトヤ、佐藤真紀

佐藤桃子、廣部奈緒美、前田諭、藤澤彰祐、石田智子、佐藤笑代

三輪恵美（敬称略）



都度ご寄付 **1**名

わっかに時々来てくださる方からポチ袋でいただきました。



助成・補助団体 **10**団体

米原市、独立行政法人 福祉医療機構、リタワークス株式会社

真如苑、社会福祉法人 米原市社会福祉協議会、

公益財団法人 信頼資本財団、一般社団法人 全国食支援活動協力会

公益財団法人 さわやか福祉財団、社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会

NPO 法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ

（敬称略 2020.6.25 現在）



編集後記

思い切って今月からレイアウトを変更しました。

以前の方がいいという方もいらっしやると

思っては、おりますが、

毎月、月次報告をお送りして

読んでくださっているみなさまに

わかかのもをもっともって知って欲しくて、

いままでの活動報告中心の内容から、

活動報告は最低限にとどめて、

活動への思いや、

活動を通じて感じたことを、

わかかのメンバーが書いています。

読んでくださっての感想やご意見が

ありましたら、ぜひお教えください。

月に1回わかかからお送りする

月次報告が少しでもみなさまにとって

読んでみたいと思えるものに

なればと願っています

(だいのすけ)

団体名	NPO 法人 わっか
住所	〒521-0012 滋賀県米原市米原 178-5
電話	070-1803-1059 (代表)
メール	wacca235@gmail.com
ホームページ	https://npo-wacca.org
Facebook ページ	こどもと大人の居場所 わっか
Twitter	アカウント名 @NpoWacca